

平成28年度

事業活動報告書



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

I. 法人の概要

(平成29年3月31日現在)

法人の名称	公益財団法人吉野川紀の川源流物語
設立年月日	平成14年4月1日 平成24年4月1日名称変更し、移行したことにより設立
定款に定める目的	この法人は、「樹と水と人の共生」を目指し、吉野川・紀の川の源流部を拠点に、その自然的価値、文化的価値を大切に、流域をはじめ都市部の人々にこれを伝え、共に考え、行動するため、体験学習・交流活動を通じて、広く啓発や環境教育に関する事業を行う。そして、これに必要な拠点施設や関連公共施設の維持管理・運営に関する事業を行い、源流域の自然環境保全活動に努める。これらの活動により、流域をはじめ都市部の人々と水源地域を結び、もってそれらの人々の公共利益に寄与することを目的とする。
定款に定める事業内容	この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。 (1) 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業 ① 「吉野川源流－水源地の森」体験学習プログラムの提供 ② 森づくり体験学習プログラムの提供 ③ 体験学習を通じた環境教育の実施及び支援 ④ 水源地域の環境保全にかかわる人材の育成 (2) 流域交流・啓発にかかわる事業 ① 水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施 ② 水源地域の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷物等の刊行、電子情報媒体の作成 (3) 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業 ① 水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施 ② 「吉野川源流－水源地の森」自然実態調査の実施 ③ 源流部における斜面崩壊地での対策実験及び経過観察の実施 (4) 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業 ① 展示を通じて情報発信を行う施設の管理・運営 ② 源流部での体験活動の拠点となる森とこれに付随する施設の管理 (5) 学習教材や、啓発関連物品等の販売 (6) 他団体からの依頼にもとづいてこの法人が構築する情報や技術によって対応可能な業務の受託 (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業 2 前項第1号から第4号までの事業は、公益目的事業とし、奈良県内で行う。
主たる事務所	〒639-3553 奈良県吉野郡川上村大字迫 590 番地の2

<p>役 員 等</p>	<p>評議員（五十音順）</p> <p>上嶋 教孝（川上村教育委員会次長） 浦西 勉（龍谷大学教授 元奈良県教育委員会） 大倉 一郎（橋本市上下水道部長） 霜上 民生（一般社団法人近畿建設協会理事長） 巽 和祥（和歌山市水道局長） 西川 浩至（奈良県水道局長） 原田 武男（和歌山県企画部地域振興局地域政策課長） 春増 薫（川上村議会議長） 東谷 八宗（川上村議会総務文教委員長） 宮岸 幸正（大阪工業大学副学長） 村田 崇（奈良県地域振興部長） 森内 太（川上村地域振興課長）</p> <p>理事（代表理事・業務執行理事を除き五十音順）</p> <p>栗山 忠昭 代表理事・理事長（川上村長） 松村 悦治 代表理事・副理事長（川上村副村長） 森脇 深 業務執行理事（川上村水源地課長） 小槻 勝俊（奈良県地域振興部地域政策課長） 辻谷 達雄（元 森と水の源流館館長） 西久保 智美（コミュニティライター） 橋本 裕行（奈良県立橿原考古学研究所企画部企画課長） 宮口 侗迪（早稲田大学教授） 横田 岳人（龍谷大学准教授 教養教育センター副センター長）</p> <p>監事（五十音順）</p> <p>辰巳 八郎（川上村監査委員） 中島 誠（税理士）</p>
<p>主 な 会 議</p>	<p>定例理事会 6月 8日（前年度事業報告及び決算の件ほか） 定時評議員会 6月24日（評議員選任の件、理事の選任の件 前年度事業報告及び計算書類等の承認） 臨時理事会 6月24日（代表理事、業務執行理事の選定） 臨時理事会 9月 9日（評議員会の招集決議） 定時評議員会 9月28日（評議員選任の件） 定例理事会 3月22日（次年度事業計画及び収支予算書の件ほか）</p>

II. 事業の状況

公益事業 I	環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業			
吉野川・紀の川の源流及び水源地域の自然環境や文化を資源とした環境学習及び体験等のプログラム実施を通じて、環境保全や保護についてともに考え、行動するきっかけを提供する。そして流域をはじめ都市部の人々と水源地域の交流を促進し、これらの地域の環境に対する意識の向上ならびに環境保全に寄与する事業。				
	時期	回数	参加数等	概要
水源地の森ツアー（一般公募型）	4・7・11月	3回	71名	「水源地の森」での体験学習の実施
団体（企業含む）研修等での利用	通年	71件	2,150名	水源地の森散策や森づくり体験等
環境教育支援（学校対応）	通年	79件	4,032名	小学校から大学までの見学案内及び出張源流教室
源流学の森づくり （源流人会等の活動）	5・8・9・12月	4回	109名	一旦伐採された二次林での森林整理作業、「源流学」実技体験。「NPO山野草の里」との交流会を実施。

公益事業 II	流域交流・啓発にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域をはじめ都市部の人々と相互に交流することによって、源流及び水源地域の自然環境や文化的価値を見出し、大切に守り育てていくことを目的とした啓発イベントや講座を実施する。そして自然環境について高い意識をもった人材育成につなげることで、これらの地域環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
夏休み（館内）プログラム	7～8月	8種	94名	「ペットボトル顕微鏡づくり」学習シートほか
川上村環境基本計画推進業務	通年	5回	109名	住民参加に環境クラブ活動と役場公共施設職員研修の企画・実施他啓発ツールの作成・配布
森守募金キャンペーン on おはなしカーニバル	7月4日	1回	400名	多様な団体とともに実行委員会形式で運営に参加し募金を呼びかけ
流域等各地へのPRキャラバン	通年	9回	1,330名	「過疎問題シンポジウム in なら」 「紀の川じるし見本市」 出展ほか
機関誌『ぼたり』発行	7・3月	2回	-	36号と15周年記念として37・38合併号発行。源流人会会員、村内観光施設、国会図書館、村内図書館ほかPR用配布、15周年報告で活用
総務省過疎地域自立活性化優良事例表彰（総務大臣賞）に伴う報告	10月	1回	250名	全国過疎問題シンポジウム分科会にて財団の取組み等を発表
環境省グッドライフアワード 環境大臣賞グッドライフ特別賞報告	12月	1回	主催者発表なし	「環境と社会によい暮らし」にかかわる活動として受賞。東京での表彰式にて取組みを発表。

公益事業Ⅲ		源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域の源流部における自然的価値及び文化的価値を大切にするため、流域をはじめ都市部の人々にも参加を求めながら調査・研究を行い、その成果の発信を行うことを通じて、これらの地域の環境保全ならびに向上に寄与する。					
	時期	回数	参加数等	概要	
吉野川紀の川しらべ隊	5・8・月	3回	191名	参加体験型でのコケ、水生生物・昆虫の観察。	
水源地の森を学び体験しよう	11月	1回	50名	アクアソーシャルフェス（トヨタ、奈良新聞助成事業）として追加実施	
水源地の森自然環境調査	6・9・10月	4回	8名	希少植物の調査	
専門家による調査・研究	5・6・7・10月	7回	25名	植物（下層植生・トカサリ）・菌類など研究者の調査支援	

公益事業Ⅳ		拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業			
水源地域における環境保全の啓発や環境教育を行う拠点となる施設やフィールドを一体的に維持管理及び運営を行うことで、地域環境保全ならびに向上に寄与する。					
	時期	回数	参加数等	概要	
「森と水の源流館」管理	通年	—	利用者 12,629名	日常の維持・管理、運営。定期点検、清掃、補修。企画展「アクリルタワシの世界」「白屋の昆虫」を実施。	
「吉野川源流－水源地の森」管理	通年	47回	—	散策路周辺の見回り・点検、補修（入山者620名）	
「水源地の森交流施設」管理	通年	17回	—	水源地の森に付帯する休憩・管理施設の見回り・点検、補修	

収益事業Ⅰ	ミュージアムショップ事業
拠点施設において、訪問の記念となる品とともに、源流及び水源地域の支援・PR並びに自然環境の保全・啓発等に寄与する関連商品の販売を行う。	
概要	
オリジナル商品（副読本・絵本・ポストカード・楽曲CDなど）・地域の自然、歴史・文化・伝承の書籍、環境に配慮した製品（洗剤など）、村内で採水・製造のペットボトル入湧水、自然観察用品（ルーペなど）、企画展・ギャラリー展ほか行事に関連したタイムリー商品も販売。	

収益事業Ⅱ	受託事業		
他団体からの依頼にもとづいて当財団が構築する情報や技術によって対応可能な業務を受託し行う。			
	委託者	時期	概要
和歌山市民の森管理業務委託	和歌山市	9～3月	3haの二次林管理作業
和歌山市民の森源流体験学習業務委託	和歌山市	10・11月	市民の森への林道が歩行困難なため「水源地の森」学習会として実施
水のつながりプロジェクト実施等に係る業務	川上村	4月～11月	農作業や源流散策など平野部の相互交流事業実施支援、報告書作成
吉野川紀の川型流域連携モデルの具現化業務	川上村	2～3月	上流・中流・下流のめぐみと人をテーマにつながりを見視覚化・PR展開

公益事業Ⅰ 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業

一般公募や団体の要望により企画する「水源地の森ツアー」のほか、源流地域の自然や文化にふれる体験型ツアー形式などによる研修の受け入れを行った。

【一般公募型 水源地の森ツアー】

4月・7月・11月開催、71名が参加。



【企業や行政など団体による研修等の利用】



全国大規模水道用水供給事業管理者会議 (8/26)



ユネスコエコパーク 台湾視察団 (2/11)



関西電力労働組合森づくり
(10/28・29 11/11・12)



吉野川紀の川流域協議会源流体験会 (3/18)

【環境教育支援（学校対応）】

森林環境学習の受入れや「出張源流教室」を実施。



渋谷教育学園（中学校） 見学 (10/13)



大和高田市立片塩小学校出張源流教室 (7/7)

【源流人会の活動】

山村に残る知識や知恵、技を「源流学」として共有化することを目指し、事業を実施した。



「源流学の森づくり」防鹿ネットの設置や除伐の活動への参加 (5/1)



桜井市「NPO山野草の里」と相相互作用体験と交流 (8/20 桜井市三谷。9/17 川上村白屋)

公益事業Ⅱ 流域交流・啓発にかかわる事業

源流地域の魅力を介して、都市部の人々との交流をはかる催しの開催や、各地に出かけてのPR・普及啓発に取り組んだ。

【ゴールデンウィーク「移動源流館」】

川上村内で開催される他の催しと連携し、村内等を巡るバス車内にてミニ展示やガイドを展開。また館内でも待機時間を利用した体験プログラムを提供した。



【夏休み（館内）プログラム】

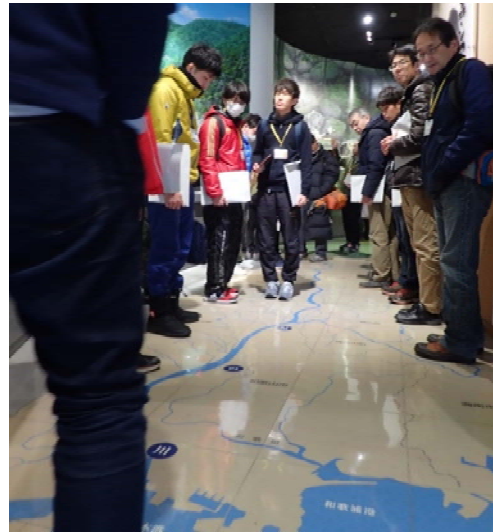
夏休み期間中「宿題応援！」を掲げ、「カエルの図鑑作り」「紙漉き体験」「ペットボトル顕微鏡づくり」などの体験プログラムを提供。



【流域ESD】

ESD : (Education for Sustainable Development)

「紀の川じるしのESD」と題し、奈良県と和歌山県内の学校教員が、同じ源流域の川上村でESDの研修会を開催。これは奈良ESDコンソーシアム第3回実践交流会としても行われ、同機関と和歌山市立教育研究所との共催で実施。



【総務省 過疎地域自立活性化優良事例表彰 総務大臣賞

環境省 グッドライフアワード 環境大臣賞グッドライフ特別賞 関連での発表・報告】



全国過疎問題シンポジウム in なら分科会 (10/14)

グッドライフアワードでは表彰式での発表のほか
公式ホームページでもPR (12/10～) →

環境大臣賞 グッドライフ特別賞

2県を繋ぐ森里海の連携 「紀の川じるし」で流域の産業を元気に!

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

日本有数の多用途管理される大谷ヶ原公園、奈良県川上村の源流の森に生まれる吉野川、奈良県や和歌山県へと流れていく。和歌山県に入り紀の川と名を変え、やがて紀伊半島の海へと注ぐ全長126kmの一級河川です。

その上流域では林業、中流域の農業、河口域の漁業、いずれも質の高い第一産業をつないでいることもこの川の強みです。これらの産業がいつまでも元気に続けられることが、流域の持続性や発展、向上を守り育てていくことにもつながります。そこで水源地、農業、漁業のキーパーソンとともに「紀の川じるし」といういわゆるブランドを立ち上げ、川に由来する「食（水産）・海（水産）のつながり」を「繋ぐ」し、それぞれの地域や人のおおいと共創が生まれた産業を消費者に届けてもらうことで、各地ぐるみで流域の持続発展を創出しています。また「紀の川じるし」として、産地振興をいかにした取組にも取り組んでいます。

▶ 活動拠点： 奈良県川上村、和歌山県橋本町、和歌山県を拠点とした紀の川流域

▶ プロジェクトカテゴリ： 教育 / 福祉 / 食料 / 仕事

▶ URL： WEBSITE： <http://www.wfs.kawasaki.com/na/2017>



←一般財団法人日本ダム協会主催「第64回水源地活性化講習会」での報告 (2/24)

【流域ほか各地での情報発信・PR、啓発活動】



紀伊風土記の丘「風土記まつり」(11/13)



吉野熊野観光フォーラム(2/1 環境省主催)

歴史資源をテーマに役場や公共施設職員へ情報発信。(9・11月)



橿原考古学研究所附属博物館の文化庁補助事業「移動博物館」事業内の位置づけで、巡回展「川に生きた人たちー吉野川流域の考古学ー」と題したPR発信を行った。川上村(3/10～12)のほか吉野町(3/17～18)・大淀町(3/3～3/5)にて共同展示。



【川上村環境基本計画推進業務】

役場・公共施設職員の研修会や、村民を対象とした流域学習会を開催。流域で環境貢献活動が盛んな企業見学（左）、川上村役場や村内施設職員を対象とした環境と地域活性の共存を学ぶ講習（右）など、本財団のネットワークによる内容で実施。本年度は環境基本計画の進捗成果とマナーアップを呼びかけるツールも作成。



流域学習会 築野食品工業株式会社 (3/7)



キャニオニング事業者を招いた講習会 (12/5)

マナーアップツール

(お盆期間にも来村者に配布)



【機関誌『ぼたり』No. 36～37・38 合併号発刊】

活動報告や調査結果などを記載し、夏・冬・春の定期発刊。源流人会会員、村内観光施設、村内図書館、国会図書館ほかへ配布している。今年度は15周年を記念し、冬・春号で記念企画による合併号を発刊。



公益事業Ⅲ 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業

調査事業では、源流地域の環境の実態把握と周知をねらいとして、流域をはじめ都市部の人々に協力を呼び掛けた参加型の調査も実施した。

【吉野川紀の川しらべ隊】

川上村内のほか、吉野町など流域市町村をフィールドに観察会を実施。



「吉野山のコケを調べよう」(5/8 吉野町)



「白屋の虫をしらべよう」(8/21 川上村)



「水生生物をしらべよう」(8/26 川上村)

【専門家や研究者による調査・視察】



「水源地の森」下層植生調査(6・7・10月)

公益事業Ⅳ 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業

【「森と水の源流館」の管理】

館の維持管理、案内や企画展・歳時展示を実施。



「アクリルタワシの世界」(7/1～10/31) とミュージアムトーク (8/6)



「白屋の昆虫と生態」(7/15～3/31) とミュージアムトーク (8/13)



「OGAWA COCOROイラスト展」(2/11～3/31)



川上写真愛好会「猿侯」による写真展示 (春季 4/1～6/30。冬季 11/1～2/10)

【「吉野川源流－水源地の森」・「水源地の森交流施設」の管理】

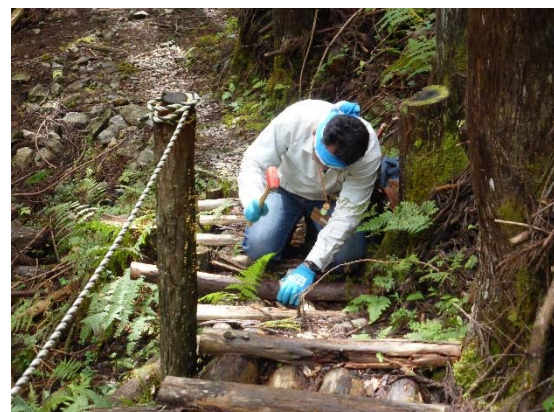
水源地の森内の散策や簡易な木橋の復旧、また付帯する休憩施設・管理棟の定期見回り・点検、簡易な補修を実施。森守募金を使って作成している啓発看板の設置やパンフレットの配布を行った。



「水源地の森」環境保全のためのガイドブックの配布を漁業共同組合等へも依頼



「水源地の森」立入制限呼びかけの看板設置



「水源地の森」見回りと散策路の補修

収益事業（受託事業）

【和歌山市民の森源流体験学習業務】（和歌山市）

平成16年度から継続する和歌山市民の森づくり事業。ここ数年は現地までの林道の崩落により一般の参加者では現地までの歩行によるアクセスも難しい状況のため、水源地の森での学習会を実施。



(10/15)



(11/26)

【水のつながりプロジェクト実施等に関する業務】（川上村）

大和平野土地改良区の農家作業の体験を通じて、源流部と平野部の小学生の交流事業や大人向け源流トレッキングなどの運営を受託。



源流の子どもの田植え体験（6/15）・稲刈り体験（10/20）（橿原市内）



平野部の子どもの源流体験（9/14）・大人向け源流トレッキング（8/18）

【吉野川紀の川型流域連携モデルの具現化業務】(川上村)

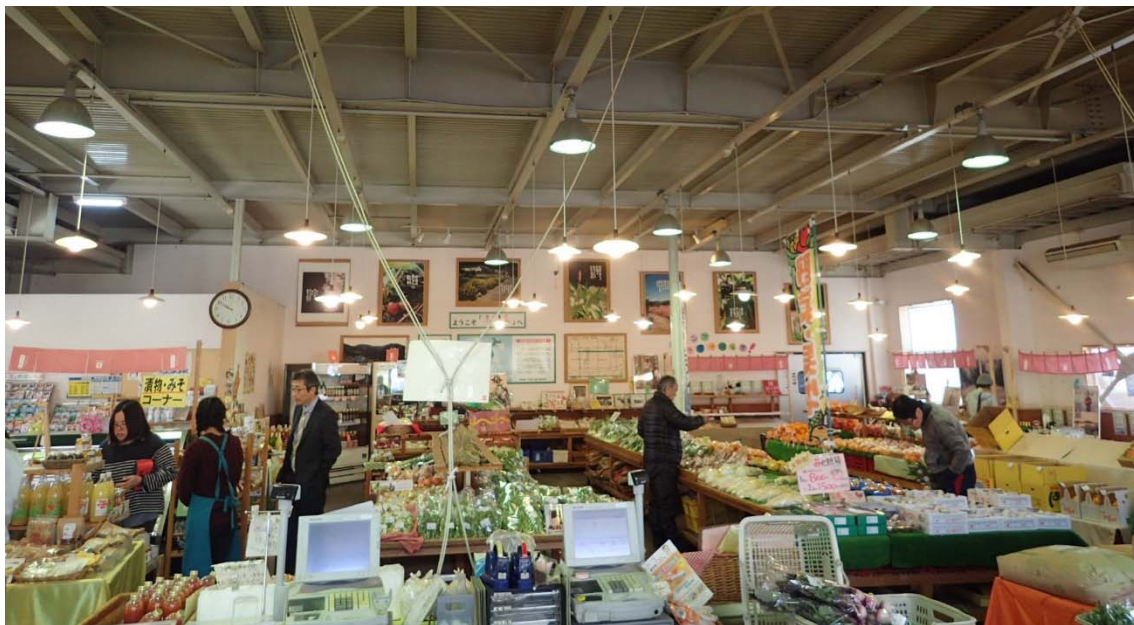
吉野川流域におけるこれまでキーパーソンとの関係をいかし、昨年度に立ち上げた「紀の川じるし」をシンボルに、これをさらに具現化し、浸透させ、協力者を広げる取組みとして、シールラリー運営や「紀の川じるしの見本市」などを展開。



←シールラリー運営



「紀の川じるしの見本市」(3/17~20)



パブリシティ（新聞ほか掲載記事）

絶滅危惧種 神社に植樹

川上 川上村の森と水の源流館は7

日、マツ科の植物「トガサワラ」の苗木を丹生川上神社に奉納し、植樹した。トガサワラは、環境省のレッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種リスト)で絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

希少樹種の研究、保全をしている国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター(関西育種場(岡山県勝央町))が、村有林に自生しているトガサワラから2009年秋に種子を採取。育苗に成功し、苗木5本を源流館に寄贈した。うち2本が神社に奉納された。望月康彦(望月)は「大木となり、未来の参拝者が感動してくれればうれしい」と語った。(養山出)



トガサワラの苗植樹

絶滅危惧種保全 川上の神社に



環境省の「絶滅危惧Ⅱ類」針葉樹「トガサワラ」の苗に指定されているマツ科の木2本を、川上村の環境学習施設「森と水の源流館」が同村の丹生川上神社上社に植樹した。国の研究機関が同村の自生地から採取した種子から育苗に成功した。同館によると、トガサワラは同村の「三之公トガサワラ原始林」(国の天然記念物)など、紀伊半島や四国南部の一部にしか自生していない。かつて建築材に使われ、伐採後に杉やヒノキが植林されたため激減。県のレッドデータブックでも希少種となっている。

境内にトガサワラの苗木を植樹する(左から)木村さん、辻谷さん、望月宮司(川上村の丹生川上神社上社で)

習施設「森と水の源流館」が同村の丹生川上神社上社に植樹した。国の研究機関が同村の自生地から採取した種子から育苗に成功した。同館によると、トガサワラは同村の「三之公トガサワラ原始林」(国の天然記念物)など、紀伊半島や四国南部の一部にしか自生していない。かつて建築材に使われ、伐採後に杉やヒノキが植林されたため激減。県のレッドデータブックでも希少種となっている。

知ってもらおうと、植樹することにした。同館の辻谷達雄・元館長(82)と木村全邦・企画調査班長(43)が4月7日、神社に奉納し、境内に植えた。辻谷元館長は「吉野川源流の村の森を大切にすることを育てていきたい」、望月康慶宮司(68)は「参拝者に成長を未永く見守ってほしい」と話した。

絶滅危惧種の幼木奉納

丹生川上神社にトガサワラ

日本固有の針葉樹で生きた化石とも言われる、トガサワラ(マツ科、環境省レッドリストト絶滅危惧Ⅱ類)の幼木2本が7日、川上村迫の丹生川上神社上社(望月康慶宮司)に奉納された。

トガサワラは紀伊半島中南部など生育域が限定。同村神之谷、三町(で発芽させ、樹高約50センチまで育てる)に成功した。

ふだん目にする機会のない樹木を多くの人に知ってもらおうと、同上社境内に植樹。

同村の環境学習施設「森と水の源流館」の木村全邦調査班長(43)



トガサワラの幼木を植える望月宮司(右端)ら=7日、川上村迫の丹生川上神社上社

4.8 奈良新聞

は「川上村の自然は世界に誇るべきオンリーワン。源流の自然の豊かさを知ってほしい」と話した。

植樹は、元同館長の林業辻谷達雄さん(82)が指導。

望月宮司(68)は「100年、200年先の未来の人たちが感動してくれればうれしい」と話した。

森と水の源流館GWイベント

展示を詳しく解説

ガイドツアーや体験も

ゴールデンウィークに合わせて、川上村宮の平の「森と水の源流館」が、館内ガイドツアーや体験イベントなどを開催。3日は川の

上・中・下流の魚や環境を再現した展示や、縄文時代の暮らしから現代の林業に至るまでの展示をガイドが詳しく説明した。

千葉県市川市から来た中村孔明さん(46)は「アマゴと東日本のヤマメは、ほぼ同じ魚だと初めて知った」と話し、楽しく学べる催



館職員(右)から詳しい解説を聞くガイドツアー参加者＝3日、川上村宮の平の森と水の源流館

しに満足そうだった。ガイドツアーは、5日までの毎日、午前10時15分から同11時と午後0時45分から同1時30分までの入館者を対象に実施する。開館時間は午前9時から午後5時まで。入館は同4時30分まで。高校生以上400円、小中学生200円。



○：川上村の自然や歴史に親しんでもらおうと、同村宮の平の森と水の源流館は5日、洗剤を使わず汚れを落とすアクリルたわしづくりの体験講座を開催。家族連れらが挑戦した。写真。

○：たわしは、カラフルなアクリル毛糸を合紙に60回ほど巻いて束にしたものを、あらかじめ切っておいた糸でくくって作製。タコなど好みの形に整えて完成させた。

○：この催しは同館アルバイトの上田厚子さん(56)が「ちよっとした心がけて川を汚さず綺麗」と企画した。上田さんは「簡単に見えるけど、洗剤を使わないのは環境にも財布にも優しい。ぜひ知ってほしい」と話していた。



アルバイトの上田厚子さん(56)が「ちよっとした心がけて川を汚さず綺麗」と企画した。上田さんは「簡単に見えるけど、洗剤を使わないのは環境にも財布にも優しい。ぜひ知ってほしい」と話していた。



○：春の大型連休の期間中、川上村で体験学習の催しが開かれ、同村宮の平の森と水の源流館では、同館の木村全邦企画調査班長が「カエルのおはなし」と題して講演。子供たちがカエルの生態などを学んだ。写真。



○：このほか、同村東川の匠の聚では、アートフェスティバルが催され、陶芸体験や木片を使った木のくるまづくりなど約20のブースが出展。親子連れらでにぎわった。

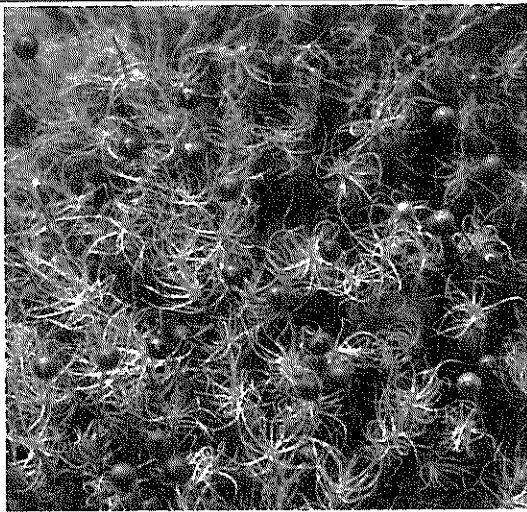
新緑の季節 コケも輝く

風薫る5月は、自然を楽しむのに良い季節。以前から気になっていた「コケ」に触れてみたいと思い、森と水の源流館(川上村)の企画調査班長、木村全邦(43)に、同村西河の「あきつ小野スポーツ公園」に連れて行ってもらった。日陰になっている石垣でさっそく、「タマゴケがあまりです」と木村さん。観察

用のルーペをのぞくと、繊細な葉の間からにゅっと不思議な球が突き出ている。これはコケの「胞子体」といい、「漫画『ゲゲゲの鬼太郎』の『目玉おやじ』のようでしょう。ユニークなので、最近人気です」と教えてくれた。周辺にはほかにもトヤマシノブゴケやオトヲノオゴケ、ニスビキカヤゴケなど、たくさんコケが。桜やイロハモミジの木漏

れ日が降り注ぐ広場に移動した。広場の縁を指した木村さんは、「この緑は全部コケ。コケの園です」。ルーペで見ると、明るい緑色のコケの体「配偶体」が見えた。コツボゴケとコバノチョウチンゴケの群落なのだという。万葉集には、吉野のコケの美しさを詠んだ歌がある。実は、コケの美しさに世界で最初に気づいたのは日本人なのだとか。「新緑

「目玉おやじ」や広場の群落…川上村で観察体験



ユニークな形で人気というタマゴケ



胞子が成熟すると胞子体の先が黄色っぽくなるニワツノゴケ

「森と水の源流館」では、森や水、生物、自然、歴史、民俗、郷土料理などをテーマに「川上村エコツアー」を開催。コケの観察もできる。対象は小学生以上で、申し込みは10日前まで。日程は要相談。定員25人(最少催行人数10人)。有料。問い合わせは同館(☎0746・52・0888)。

の季節の今が、コケも一番美しい。コケを眺めてふと目を上げると、周りの景色がより輝いてきれいに見える。と木村さんは話す。公園の奥にある「蜻蛉の滝」に向かって行く途中にも、ニワツノゴケやオオシラガゴケなど、たくさんコケが見られた。「吉野地域はコケの種類の多さ、希少性で世界的にもすごい所。感触や色、匂いなど五感を使って観察してほしい」と木村さん。吉野の魅力の奥深さに、改めて気づかされた。

(山本岳夫)

ボランティア6人草刈り 無人・白屋地区



大滝ダムの貯水による地滑りで無人になった川上村白屋地区で5日、ボランティア6人が草刈り体験と植物観察をした。

大滝ダムの貯水による地滑りで無人になった川上村白屋地区で5日、ボランティア6人が草刈り体験と植物観察をした。

川上村白屋地区で5日、ボランティア6人が草刈り体験と植物観察をした。村の「森と水の源流」が「人が手を入れなくなった里山」の去した跡約100平方

のように姿を変えざるかを「見てもらおう」と企画した。

草刈りは、人家を撤去した跡約100平方



雨の中、草刈りに励む参加者川上村で

いで、鹿の食害防止の柵が巡らされた「見本園」で実施。源流館が年一回、草刈りをしていくが、ススキなどがすぐに腰の高さまで生い茂り、鎌で草を切り払わないと中に入れないほどだ。大和高田市から参加した鳥山都美さん(71)は「人が引越した人家跡がどうなるか、興味があった。こんなになるとは思っていなかった」と驚いていた。

参加者はこの後、尾上聖子さん(奈良植物

研究会員)、木村全邦さん(源流館)の案内で外来種植物も観察した。地区では既に、大きなとげがあるアメリカオニアザミ、毒があるナルトサワギクが見つかっていると

【栗栖健】

生き物観察や交流

水のつながりプロジェクト

橿原で児童が田植え体験



一列に並んで田植え体験をする児童＝15日、橿原市田中町の水源交流水田

大和平野土地改良区
改良区と川上村
大和平野土地改良区
と川上村は15日、橿原
市田中町の水源交流

水田で、同市と同村の
小学生の田植え体験を
行った。

吉野川分水の水源地区
と、水が供給される大
和平野の子どもたちと

の交流を図る「水のつ
ながりプロジェクト」
の一環で、今回で5回
目。市立香貝山小学校
5年生29人と、村立川
上村小学校4、5年生
8人が参加した。

児童は、地元農家の
人から作業の説明を受
けたあと水田に入り、
一列に並んで田植えを
開始。カエルやタニシ
などの水生生物を見つ
けるたびに歓声を上げ
ながらも、熱心に苗を
植え付けていった。

田植えの後には、和
歌山大学大学院生の古
山暁さんが「生き物観
察ミニ授業」を実施。
水田で捕獲した25種類
の生物を紹介した。

川上小4年生の馬場
君桜さんは「水田は思
ったより深く、ぬるぬ
るしていたけれど、う
まく植えられた。みん
など協力できて楽しか
った」と笑顔を見せた。

トヨタ自動車は、ハイブリ
ッド車「アクア」の車名にち
なみ、「水」をテーマにした
社会貢献活動「アクアソーシ
ャルフェス」を全国の地方新
聞社、NPO団体などと連携
して取り組んでいる。今年で
5年目になる。

県内では、森と水の源流館
（公益財団法人吉野川紀の川
源流物語）と奈良新聞社の主
催。吉野川の源流である川上
村の蜻蛉（せいらい）の滝付
近で自然を観察し、水生生物
を調べる取り組みを行う。

【開催日時】8月6日（土）。
午前の部午前10時～正午、午
後の部午後1時30分～同3時
30分。

【開催場所】川上村西河の
蜻蛉の滝付近
【募集人数】午前、午後各
50人。

【参加費】無料

【応募方法】はがき、ファ
クス、電子メール、特設ウェ
ブサイトの応募フォーム（www.aquasocialfes.jp）で。

【申し込み方法】「アクア
ソーシャルフェス」8月6日

川上村参加希望と明記し、
郵便番号、住所、参加者全員
の氏名と年齢、電話、緊急連
絡先（携帯番号と携帯メール
アドレス）、午前・午後どち
らに参加希望かを書いて、〒

611-0201 奈良市法
政1-1-1 奈良新聞社
企画部内「アクアソーシヤル
フェス奈良事務局」、電話0
742-332-2112（平
日午前9時～午後5時30分）
【協賛】トヨタ「AQUA
SOCIAL FES!!」

川上・蜻蛉の滝で自然観察

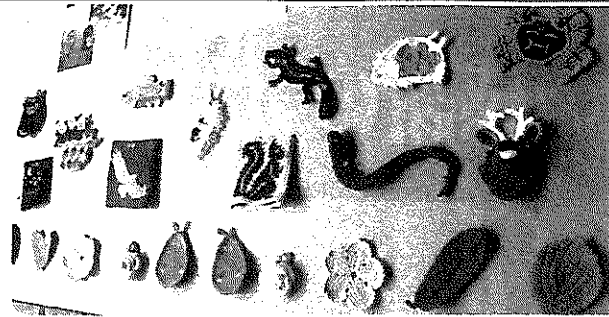
トヨタ「アクアソーシャルフェス」 8月6日開催、参加者を募集



昨年の「アクアソーシヤル
フェス」

動植物モデルのエコタワシ

川上森と水の源流館で展示



川上村にいますまきさまな動物や植物をモデルにして制作したアクリルタワシの作品の展示が、同村の森と水の源流館で開かれている。写真。

洗剤なしでも食器の汚れを落とせるというアクリルタワシに着目した同館臨時職員の上田厚子さん(57)が「水を守ることに考えて、思いを寄せるきっかけになれば」と発案。村に生息する動物や植物をモデルに制作した。

展示されているのは、ア

奈良新聞 10.10

源流の生きものを編む

森と水の源流館で アクリルタワシ展

川上

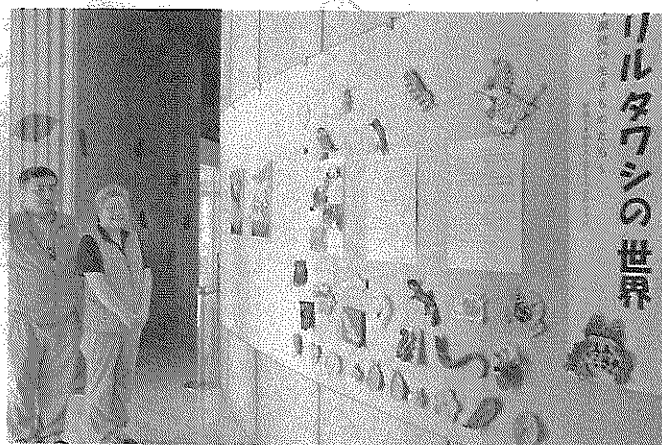
自然豊かな川上村の生き物を表現した「アクリルタワシの世界」が、同村迫の森と水の源流館で開かれている。31日まで。

アクリルタワシは、洗剤を使わずに食器の

クリルの毛糸を編んで作ったヤマセミやオオルリ、カモシカ、カエル、葉っぱなど約40点。モデルの動植物に合わせ、さまざまな色の毛糸が

使われている。10月31日まで。水曜休館。問い合わせは同館(☎)

0746・52・088(8)



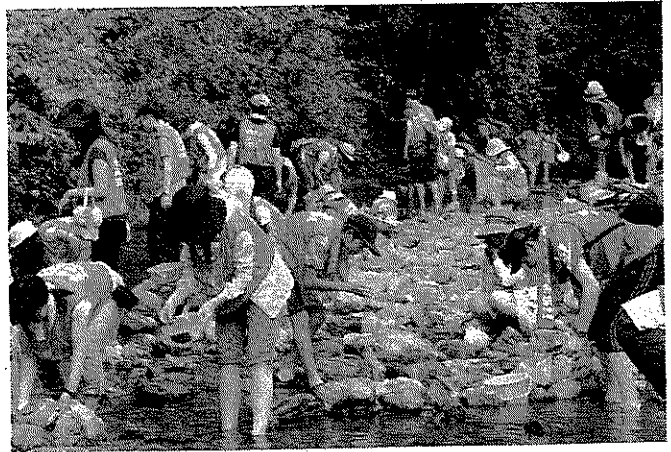
アクリルタワシになった川上村の生きものと制作者の上田さん(右)＝同村迫の森と水の源流館

汚れを落とせるエコグッズ。アクリル毛糸を円形などに編んで作るし、鳥や魚、動物などが、同館スタッフの上計38点の作品にした。

題材は、源流地域ならではの野鳥ヤマセミやオオタイガハラサンショウウオ、虹色に光るタカチホヘビなど。珍しい生きものたちが温もりのある小品になって並んでいる。

同館は「アートな作品に触れて、源流の自然を守る村民からのメッセージを感じてほしい」と話している。

午前9時から午後5時開館。入館料は高校生以上400円、小学生200円、小学生未満無料。水曜休館。問い合わせは同館、電話0746(52)0888。



川に入って生き物を採集する参加者＝6日、川上村西河の音無川

川に入って 生き物探し

川上

吉野川支流でフェス

全国の水辺で展開される「アクアソーシャル

フェス2016（トヨタ自動車協賛）の一環で、きれいな吉野川を

未来に残そうプロジェクト「水生生物をしろべよう」（森と水の源

流館、奈良新聞社主催）が6日、川上村西河で行われ、県内外から約120人が参加した。今年で5年目。

吉野川支流の音無川に入り、サワガニやカジカガエルなど20種類を超える魚や虫を採集。県水生生物研究会の谷幸三会長が生物の名前や特長を楽しく解説し、「きれいな川」と判定された。

ゲンジボタルの幼虫も見つかり、「珍しい。

今年成虫になれなかった幼虫です」と谷さん。川に落ちた葉っぱなどが養分になって多様な生物をはぐくむと語り、豊かな水環境と森林のつながりも強調した。

きれいな川に住むミヤマカワトンボやヘビトンボを見つけた名古屋市の中学1年生田匠吾君（13）は「川上村の川はとてもきれい。いろいろな生き物がいる。自然を大切にしたい」と話した。



牛乳パックからオリジナルのはがきを作る子どもたち＝14日、川上村迫の森と水の源流館

牛乳パックをはがきに

リサイクル紙すき

川上村の環境学習施設「森と水の源流館」で14日、牛乳パックをリサイクルしてはがきを作る紙すき体験があった。

牛乳パックの表面のビニールコーティングをはがした紙が原材料。繊維を細かくしてからのりを加え、特製の本枠を使って紙すきを行った。

参加者は身近な葉っぱや色紙などを散らしておしゃれに仕上げた。木が紙になることも学び、森の大切さを知った。

葛城市の葛和咲希ちゃん（5）咲良ちゃん（3）姉妹は「上手にできておもしろかった。

お友達にお手紙を書きます」と喜んでいました。同施設の夏休み企画

川上村で体験

「がんばれ宿題」シリーズの一つ。きょう15日は「カエルのお勉強

と図鑑づくり」（午前10時と午後3時、体験料500円）がある。ミニ企画展「白屋の昆

水源守る大切さ学習

森と水の源流館が出張教室

冷たく手も長く漬けられぬほど。そこに住むサンショウウオはつかむと人の体温でやけどする」と言つた。

天然林と人工林の違い、植林した杉を建築材から割り箸、皮まで

使い尽くす生活の知恵を説明し、成瀬さんは「森を守るために何ができるか考えて」と結んだ。

学校としての受講料は小中学生1人当たり100円。他に工作材料代1人100円。森と水の源流館(074-6・52・0888)。

【栗栖健】



森と水の源流館の出張源流教室。大きな木挽きのこぎりに子供たちはびっくり。校井市立朝倉小で6月17日

川上

吉野川の源、川上村の「森と水の源流館」(同村迫)は学校に出向き、水源を守る大切さ、山村の生活を伝える「出張源流教室」を続けている。子供たちは森が育んだ鹿の角や大きなキノコに目を輝かせ、森が水を保つ仕組みを学ぶ。

6月に校井市立朝倉小(田合一三校長)で開かれた教室は、同小4年生21人の環境学習の一環。源流館職員

成瀬匡章さん(41)は村に生息する鹿とカモシカの角、クマタカの羽、かつて使われた大きな木挽きのこぎり、杉の酒だる、漁具のモンドリなどを持参した。

成瀬さんは森の働きを「水を蓄え、多くの生物を育て、木材を生産する」とまず整理。上流の水がきれいでお

いしいのは「ミニズやダンゴムシの働き」と説明すると児童は「フーン」。「上流は水が

奈良新聞8.23



○…大和平野土地改良区事務所第3回吉野川分水源流トレッキングツアーが、源流の川上村で行われ、親子連れ計21人が参加。田畑を潤す分水の、水源地を守る大切さを学んだ。写真。

○…一行は、バスで川上村の森と水の源流館や大迫ダムなどを訪問。三之公川上流では森と水の源流館の木村全邦班長らが、森の再生と荒廃などの問題を説明、児童らは目を輝かせて聞き入っていた。

○…きょうだいで参加した校井市立城島小学校4年生の山田琉斗



くん(9)は「登山ができて楽しかったと元気いっぱい。妹の希実ちゃん(2年生・7)も「いっぱいこけたけど、帰りはうまく歩けたので、楽しかった」と喜んでた。

谷さんから水生生物について学ぶ児童＝14日、川上村西河のあぎつの小野公園



大和平野土地改良区などの「水のつながりプロジェクト」が14日、川上村で行われ、村立川上小学校の4、5年生8人と、橿原市立香久山小学校の4年生28人が、川の源流地域の環境や生きものについて学んだ。

川上で「水のつながりプロジェクト」

川上小・香久山小
児童らが参加

吉野川支流
虫や魚採取

捕まえて
学ぼう

受益地と
水源地の
再認識を

川の源流
地域の環境

や特性を教わり、豊かな自然に親しんだ。
また、同村内の環境教育施設「森と水の源流館」や、大滝ダムでの防災ステーションも見学。それぞれ知識を深めていた。

吉野川分水の受益地と水源地のつながりを再認識する取り組み。今年6月には、同市内の田んぼで両校の児童が一緒に田植えをした。
バスで村に着した香久山小の児童は「目撃使用の無川で虫や魚を採集。県水生生物研究会長の谷幸三さんから名前

る水の古里にすむ生きもの観察が楽しみです」とあいさつ。同村の子供たちは「一緒に楽しく学びましょう」と歓迎した。
両小の児童は、同村西河の吉野川支流の音

学び合う地域振興

全国過疎問題シンポ分科会

川上で優良事例発表

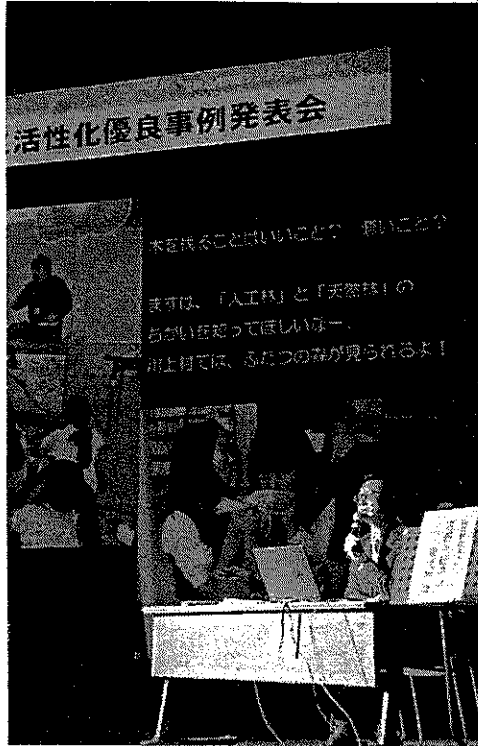
地域振興を考える「全国過疎問題シンポジウム2016」(総務省・実行委主催、奈良新聞社など後援)は14日、五條市など県内4カ所分科会が開かれ、事例発表や意見交換を行った。

川上村の分科会は、平成28年度過疎地域自立活性化優良事例表彰の受賞4団体が事例発表。総務大臣賞の公益財団法人吉野川紀の川源流物語(川上村)も、水源地の村づくりや流

域交流の取り組みを発表した。各地で過疎問題に向き合う団体や行政関係者、村民ら約300人が参加した。青森県八戸市(同大

にアートプロジェクトを展開し、積極的な地域振興を図っている。平成22年に長野県長野市に合併した信州新町は人口約4400人。商店主らがNPO法人を立ち上げ、地区内で冠婚葬祭や高齢者への配食サービスなどを行い、地域コミュニティを再生させた。

互いに学び合い、持ち帰り、元気を出していければ」と話し、活力となる内外の交流やNPOの進化などにスポットを当てた。人材の掘り起こしや地域と協働する仕組みなども優良事例に学んだ。樹齢280年の人工林など村内3カ所の現地視察も行われた。



長年の取り組みを発表した川上村の公益財団法人「吉野川紀の川源流物語」14日、川上村の村総合センターやまぶきホール

過疎地域自立の優良例

13日にシンポ 川上村に総務大臣賞

吉野川下流の和歌山県紀の川市を「流域学習会」で訪れた川上村の住民ら＝「吉野川紀の川源流物語」提供



「全国過疎問題シンポジウム2016」が13日、橿原市の過疎地域の自立活性化の優良事例として、川上村の公益財団法人「吉野川紀の川源流物語」(理事長・栗山昭村長)に総務大臣賞が贈られる。

シンポは総務省などが主催し、過疎地域の自治体や団体が相互に交流して先進事例などを学ぶ。1990年から全国持ち回りで開いている。13日に全体会があり、14日は五條市と川上、天川、曾爾各村で分科会が開かれる。

「吉野川紀の川源流物語」は2002年、川上村が設立した。村が1999年から4年かけて公有化した原生林約740畝で、「森と水の源流館」職員らが都会から訪れる人たちを案内。一方、村民が主権し、過疎地域のを訪れる「流域学習会」も開き、水源地と都市をつなぐ企画を続けてきた。こうした取組みが評価され、全国5件の大臣賞の一つに選ばれた。

知恵の結集

過疎地振興へ

体験談や

意見交換

橿原で全国シンポ

全国過疎問題シンポジウム2016 in なら(総務省・同シンポ実行委主催、奈良新聞社など後援)が13日、橿原市小房町のかしはら万葉ホールで開催し、約700人が参加した。きょう14日は県内4カ所で分科会が開かれる。

県2団体に活性化優良事例表彰



閉幕した全国過疎問題シンポジウム＝13日、橿原市小房町のかしはら万葉ホール

県地域振興対策協議会長の本末東吉野村長が開会を宣言、主催者を代表して、高市早苗総務大臣のメッセージが代読されたほか、全国過疎地域自立促進連盟会長の溝口善兵衛、島根県知事が「過疎地域では多くの集落が存続の危機にさらされるなど極めて深刻な状況。この機会を十分に生かしていただければ」と呼びかけた。

地元を代表して荒井正吉知事は「各地の過疎の対策を勉強し、知恵を出し合いながら過疎地の振興を図りたい」と歓迎の言葉を述べた。

基調講演では、徳島県上勝町で日本料理の「しずも」に用いる薬を栽培・販売する「薬つばし」を成功させた横石知二

いより代表取締役が講師に招かれた。横石さんは高齢者にやる気を出させてビジネスを軌道に乗せた体験談を披露。「人は役割をもたせるとやる気が出る。地域や人、商品が輝く舞台をつくっていくことが大事」と述べ、「過疎問題は諦めずに粘り続けていかなければならない」と呼び掛けた。

パネルディスカッションでは、県内からは本本村長や宇陀市の松田麻由子伊那佐郷入局長がパネリストとして

参加。「訪りたい、住みたい、住み続けたい地域」をテーマに意見を交換した。

平成28年度過疎地域自立活性化優良事例表彰には全国の9団体が選ばれ、県内からは総

奈良新聞 9.9

川上の団体など5団体に大臣賞

過疎地活性化で総務省など

総務省と全国過疎地域自立促進連盟は7日、過疎地の活性化に優れた成果を上げたとして、川上村の公益財団法人「吉野川紀の川源流物語」など5団体に平成28年度の総務大

務大臣賞の公益財団法人吉野川紀の川源流物語(川上村)と、全国過疎地域自立促進連盟会長賞のNPO法人うちは地域資源の活用に関するパネルディスカッションがある。

市と川上村、曾爾村、天川村で開催。五條と川上では過疎地域自立活性化優良事例の発表があり、曾爾と天川では地域資源の活用に関するパネルディスカッションがある。

臣賞を贈ると発表した。また連盟会長賞に五條市の特定非営利活動法人「うちの館」など4件を選んだ。

「吉野川紀の川源流物語」は川上村が水源地の村づくりを進めるために設立。広域的な視点で源流域の課題解決などに取り組んでいる。「うちの館」は登録有形文化財の藤岡

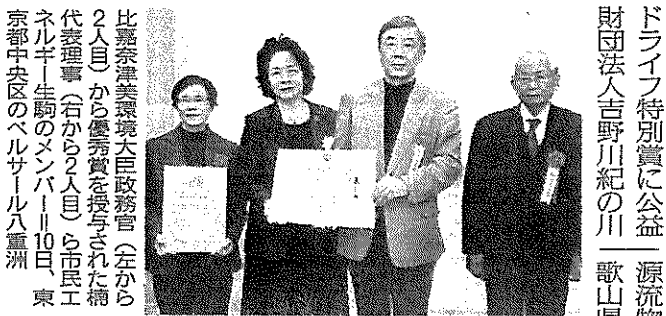
家住宅を拠点に地元の自然、歴史、文化をテーマにした様々な催しを展開している。

10月13日に橿原市で表彰式を開く。

優秀賞に市民エネ生駒

グッドライフ 環境大臣表彰

環境にやさしい社会の実現を目指し、日本各地で実践する取り組みを表彰する第4回グッドライフアワード環境大臣賞表彰式(環境省主催)が10日、東京都中央区のベルサール八重洲で開かれた。

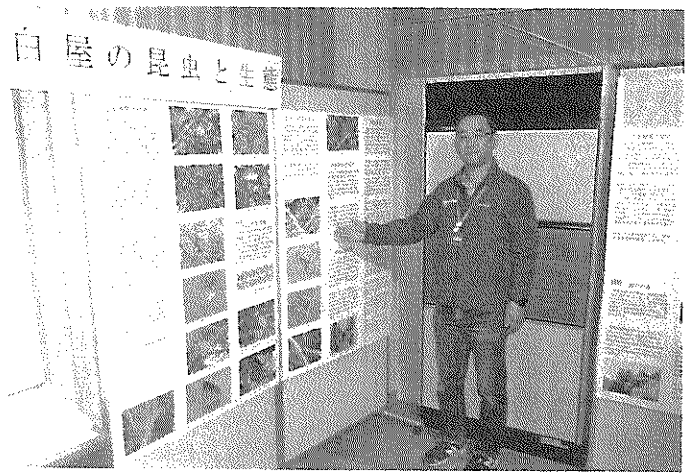


環境にやさしい社会の実現を目指し、日本各地で実践する取り組みを表彰する第4回グッドライフアワード環境大臣賞表彰式(環境省主催)が10日、東京都中央区のベルサール八重洲で開かれた。

環境にやさしい社会の実現を目指し、日本各地で実践する取り組みを表彰する第4回グッドライフアワード環境大臣賞表彰式(環境省主催)が10日、東京都中央区のベルサール八重洲で開かれた。

進と電力の地産地消を目的に全額市民出資で市内に太陽光発電所3機を設置。事業収益は介護老人保健施設への太陽光発電設備設置やことも園への園舎看板寄付、環境教育に活用するなど地域に還元した。

ミニ企画展「白屋の昆虫と生態」 チョウやスズムシなどパネル展示



川上村「森と水の源流館」

川上村の森と水の源流館で、同村白屋地区の昆虫を紹介するミニ企画展「白屋の昆虫と生態」が開かれており、写真。3月31日まで。

白屋地区は、ダム建設による地すべりの影響で、全戸移転となり、現在は人が住んでいない。

人の暮らしがなくなったことで、生き物にどのような影響があるのかを調べるため、平成27年に森と水の源流館が同地区の自然生態調査を実施。ミニ企画展では、1年を通して調査した結果をもとに、同地区で確認された昆虫について紹介している。

同地区で確認されたモンキチョウやクロアゲハ、ベニシジミ、ミドリヒョウモン、スズムシなどの昆虫の写真パネルを展示している

ほか、シジミチョウ科などの草地のチョウとアゲハチョウ科などの林縁のチョウの標本を展示している。開館時間は午前9時〜午後5時。休館は水曜。問い合わせは森と水の源流館(☎0746・52・0888)。

将来の夢は農家？

小学生、稲刈りなど体験

檀原

大和平野土地改良区と川上村などの「水のつながりプロジェクト」が、檀原市田中町の水源的交流水田で行われ、同村立川上小学校の4、5年生児童8人と、同市立番貝山小学校5年生児童29人が稲刈りを行った。

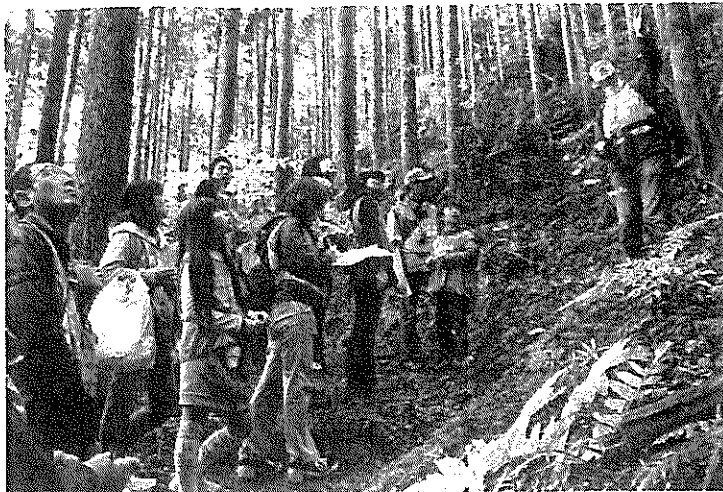


鎌を使って稲刈りをする児童＝檀原市田中町の水源的交流水田

地での環境学習などが行われてきた。稲刈りは地元の「水土里の会」が指導。児童は鎌を使って慎重に

稲を刈り取り、落穂拾いや稲架(はざかけ)までの作業を体験した。川上小5年の松本峻君(11)は「去年よりも今年はずまく刈り取れ、楽しかった。家は農家ではないが、将来は農業もやってみたい」と話した。

県きれいな吉野川を未来に残そうプロジェクト 水源地の森を学ぶ



蜻蛉の滝付近で植生を観察する参加者＝川上村内

歴史解説や植生観察

県内外から親子連れら

川上村の森と水の源流館と奈良新聞社の「県きれいな吉野川を未来に残そうプロジェクト」の本年度第2回が、川上村内で「水源地の森を学び、体験しよう」をテーマに行われた。県内外から親子連れら約50人が参加した。

川上

アクアソーシャルフェス

フェス2016(トヨタ自動車協賛)の二環。植生などを観察。甘い香りがする落葉樹タカノツメの葉や、リスが食事を楽しんだ痕跡などを発見した。

同館の木村全邦さん(43)は「日本人は古くから自然をよく観察し、活用してきた。植物の名前の由来や自然と密接に関わってきた源流地域の歴史、文化を分かりやすく紹介。シカの食害や人工林の荒廃など、源流地域が直面する課題にも触れた。初めて川上村を訪れた檀原市の中学3年生、嶋岡優菜さん(14)は「景色や空気がきれいで新鮮。ふたんに目に見えない植物をたくさん見つけた。これからはずっと豊かな森であってほしい」と話した。



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平

電話 0746-52-0888 FAX0746-52-0388

<http://www.genryuu.or.jp> e-mail: morimizu@genryuu.or.jp